

## 「JPA設立 40 周年記念総会・祝賀会」を6月5日(水)に開催します

～ グランドプリンスホテル新高輪にて ～



グランドプリンスホテル新高輪

協会は今年設立 40 周年を迎えました。そこで、2019 年度の会員総会は『JPA 設立 40 周年記念総会・祝賀会』と位置づけ、6月5日(水)に開催します。

協会は、設立 40 周年記念事業として「圧入工法の普及による社会貢献活動をコンパクトにまとめ情報発信する」という基本方針のもと、会員企業で構成する実行委員会を中心に「記念ウェブサイト」「動画」「記念誌」の3つの媒体を制作中です。記念総会では 2019 年度事業計画等の議案審議の後、3つの媒体の披露、感謝状の贈呈、第4回表彰授賞式、さらには協会創設者である北村名誉会長の

記念講演など盛り沢山な内容を企画しています。記念総会の後は、ご参集の皆様とこれまでの圧入業界の発展を祝い、これからの未来を語り合う場として祝賀会が行われます。

会員企業におかれては、代表者の方をはじめ、各社の実務に携わっている方など大勢の皆さまにご参集いただき、圧入業界の歴史と発展を共有していただきたくお待ちしております。(正式な案内は別途送付します)

< 会場 > **グランドプリンスホテル新高輪 3階「天平」(記念総会)、同「平安」(祝賀会)**  
 東京都港区高輪3丁目13番1号(品川駅 高輪口より徒歩7分)

## 『会員情報ページ』で、自社の魅力を発信！

協会は設立 40 周年記念サイトなど3つの媒体の制作に取り組んでいます。このうち、記念サイトでは会員各社のPRや情報発信ができるよう、各社の基本情報をはじめ圧入工法による実績、保有機械の状況などを自社で入力・更新できる『会員情報ページ』を設けます。『会員情報ページ』の入力ならびに更新にご協力ください。

- 入力用フォーム・マニュアルを配付  
 会員情報は、入力用フォームにて行っていただきます。ログインパスワードとマニュアルを配付します。
- 会員各社による自社の情報入力および更新  
 会員各社は、入力用フォームに自社情報の入力をお願いします。

**記念総会以降、各社が入力した情報が記念サイトから社会へ発信されます！**

## 40 周年記念サイトの開設にご協力ください

会社情報	
社名	株式会社 ○○○○
代表者	代表取締役社長 ○○○○
所在地	〒000-0000 ○○○-○○○-○○○
TEL	00-0000-0000
FAX	00-0000-0000
URL	http://www.00000000.co.jp/
E-Mail	0000@00000000.co.jp
創業	大正 00 年 00 月 00 日
設立	昭和 00 年 00 月 00 日

会員情報イメージ (会社情報)

## 国土交通省 中部地方整備局と「災害時における中部地方整備局管内の災害応急対策業務の情報提供等支援に関する協定書」を締結

協会は3月18日に国土交通省 中部地方整備局との間で上記の協定書を締結しました。この協定は、地震・大雨等、異常な自然現象および予期できない災害または事故等が発生した際に、会員企業の油圧式杭圧入引抜機や技術者の情報提供ならびに出動によって被害の拡大防止と早期復旧の支援を目的としています。詳しい内容については、協会ウェブサイトをご覧ください。

## 平成 30 年豪雨災害復旧工事で「現場見学会」を開催

～ 硬質地盤クリア工法(900 ハット形鋼矢板)が迅速な復旧に貢献 ～

(一社)全国圧入協会(JPA)は、平成30年豪雨災害に見舞われ、その復旧事業に取り組んでいる岡山県吉井川の現場において、「技術講習会・現場見学会」を2月1日に開催しました。その概要をレポートします。

吉井川寺山地区災害復旧工事 / (施工者) 榊高槻組

岡山県の吉井川水系吉井川は、平成30年7月の豪雨災害時に、堤防の法尻の崩壊と漏水被害が発生し、国土交通省中国地方整備局 岡山河川事務所等が本格的な災害復旧事業を進めています。吉井川の災害復旧事業では、豪雨で漏水した箇所を鋼矢板による遮水工を実施するとともに、漏水箇所と同様の地形、地盤が連続する区域においても同様の漏水防止対策を行っています。そのような中、吉井川寺山地区災害復旧工事において、硬質地盤クリア工法(900 ハット形鋼矢板)が採用されました。

「技術講習会・現場見学会」は2月1日の午前の部と午後の部に分け、各3時間超のタイムスケジュールで開催。大規模な災害復旧工事ということもあり、当日は発注者の方や設計コンサルタントなど総勢96名が参加しました。参加者は、まず事業の概要や硬質地盤クリア工法の貫入技術、900 ハット形鋼矢板を用いた施工事例等の解説を受けました。その後現場に移動し、硬質地盤でも振動・騒音が少なく、また傾斜地という厳しい制約条件でも圧入施工できる状況を見学しました。現場では、硬質地盤クリア工法の設計手法や900 ハット形鋼矢板の特長など数多くの質疑応答があり盛況でした。

岡山県内では、吉井川水系のほか高梁川水系、旭川水系でも災害復旧事業が行われており、最大で20台以上の圧入機が稼働する状況です。今回の現場見学会によって、防災・災害対策技術に優れた圧入工法が地域社会に貢献していることを示すことができました。



【工事概要】  
 発注者：国土交通省中国地方整備局 岡山河川事務所  
 元請者：株式会社 元浜組  
 施工者：株式会社 高槻組(会員企業)  
 施工方法：硬質地盤クリア工法  
 杭材：900 ハット形鋼矢板 10H 型  
 L=10.0m 233 枚

## Infomation

### 事務局からのお知らせ

#### ◇ CPD 認定『圧入工法技術講習会』の開催について

CPD 認定プログラムとして協会が主催する『圧入工法技術講習会』のスケジュールをお知らせします。技術講習会では、圧入工法の施工計画の要点、よくある質問、工法選定、防災・災害復旧の事例解説など3時間のプログラムです。協会ウェブサイトには詳しい案内を掲載しますのでご覧ください。

#### 【開催スケジュール】

【東京都】5月9日(木)	【広島市】5月14日(火)
【山口市】5月15日(水)	【札幌市】6月19日(水)
【秋田市】6月25日(火)	【仙台市】6月26日(水)
【福岡市】7月3日(水)	【熊本市】7月4日(木)
【名古屋市】7月11日(木)	【大阪市】7月12日(木)
【東京都】7月17日(水)	【高松市】7月24日(水)
【新潟市】7月31日(水)	【東京都】8月7日(水)
【名古屋市】8月27日(火)	【大阪市】8月28日(水)

協会 Web サイト [www.atsunyu.gr.jp](http://www.atsunyu.gr.jp)

#### 【新会員のご紹介】

(2019年1月～3月22日入会、50音順)

【正会員】  
 西尾建機(株) 埼玉県川口市  
 星野建設(株) 長崎県島原市  
 (株)プランニングワーク 大阪府堺市  
 (株)東日本基礎 宮城県仙台市  
 豊和機工(株) 静岡県浜松市

【協賛会員】  
 広和産業(株) 愛知県清須市

【賛助会員】  
 (一社)全国基礎工事業団体連合会 東京都江戸川区

#### 【会員数の状況】(2019年3月22日現在)

・正会員 198社 ・協賛会員 25社  
 ・賛助会員 4社5団体 ・特別会員 6名

# 栄えある JPA 第 3 回表彰 連載③

～「現場部門賞」の 3 件をご紹介します！～

## 【現場部門賞】 株式会社 佐藤重機建設

### 「首都高 1 号羽田線（東品川橋・鮫洲埋立部）更新工事」

この工事は、首都高速道路の更新工事として発注された「リニューアルプロジェクト」の第 1 号案件。『早期開通』を主命題に、2020 年の東京オリンピック開催前には更新線上が開通していなければならない前半の工程である。通常の交通量を確保するための迂回路と既設下り線の供用路線間に挟まれた作業帯は 1.9km の長さには及ぶ。『鋼管矢板井筒基礎』26 橋脚(杭径 1000mm、杭長 27~40m、総本数 802 本)を構築するために与えられた工期は半年。鋼管パイラーを最大 7 台投入し工程遅延の不安を解消した。実施工においては、捨石や既存杭等地中障害物、井筒基礎構築部の工事用栈橋撤去を自社で綿密に計画し施工。大深度・大断面障害物に対してはジャイロプレス工法による先行削孔を行うことにより鋼管矢板の圧入を可能とした。安全管理では専属の安全衛生担当者を現場に常駐させ日々のパトロールを強化。延べ 10 万時間の無事故無災害を達成した。全ての鋼管矢板を品質基準内に『鋼管矢板井筒基礎』の支持杭として完成させたことは大きな実績となった。

現場部門賞は、会員企業の応募から技術革新・創意工夫が発揮された現場や品質良く完成させた現場等が表彰されます



写真部門賞とダブル受賞となりました

## 【現場部門賞】 株式会社 角藤

### 「大月・初狩間 大月バイパス公道橋新設工事」

この工事は、国道 20 号線の大月市内の混雑緩和を目的としたバイパス整備事業のうち JR 中央本線との立体交差部において線路下の函体の構築に伴う工事で、ジャイロプレス工法による施工現場である。

課題は、巨石および超硬質地盤への対処。土質調査では、玉石混じり砂礫層が確認されており、その多くが直径 1000mm 級の安山岩または花崗岩(圧縮強度が 100~200kN/mm<sup>2</sup>)の巨石であった。この課題を解決するため、ジャイロプレス工法による圧入において、鋼管杭の厚さを変更。また、施工中の計測と分析に基づき、鋼管杭の先端ビットの配置を変えて施工。超硬質地盤による鋼管杭の先端の変形等の懸念を払拭し、圧入時間を大幅に短縮することができた。営業線の近接施工で、日々確実にまた慎重に施工した結果、工期の短縮が図られ、超硬質地盤の解決という技術革新事例の一つとなった。



超硬質地盤をクリアし見事に完工

## 【現場部門賞】 株式会社 技研施工

### 「鶴見川水管橋 2 号配水管 1200mm 撤去工事」

本工事は神奈川県川崎市発注の水道施設耐震及び更新工事の一環として発注された鶴見川にかかる水管橋の老朽化に伴う撤去工事である。課題は、①障害物を含む硬質地盤、②上空に送電線のある空頭制限下③水上施工、④継手のない鋼管杭による止水方法の確立であった。

技研施工では従来実績のある①~③硬質地盤・空頭制限下、水上施工をジャイロクリアパイラーにて施工してきたノウハウに加え、④鋼管連続壁の杭間に 2 本の小口径鋼管を圧入、これら大小の杭により閉合した空間にモルタルジャケットを挿入し、ジャケット内へモルタルを充填することで止水性を持たせる『杭間止水工法』を開発することで課題を解決することに成功した。また、社内において、専用アタッチメントおよび設備を新たに開発、鋼管杭の投入部(チャック)へ取付けることで、杭間の先行掘削、小口径鋼管の回転切削圧入を可能にし、空頭制限下にも対応した。この技術革新は、事前の実証フィールドにおける圧入、止水、掘削試験を経て、小口径鋼管圧入の施工性、モルタルジャケットの止水性などを十分確認した上で現場投入を行った。



鋼管杭による止水壁を実現しました

本工事では『杭間止水工法』という新たな技術革新により、品質、工期を満たすことができた。

開発型施工企業として、今後も更なる技術革新と工法の完成度向上を図り、圧入工法の拡大に努めていく。